

## 新しい生活様式のもとでの大学授業の実態と意識に関する全学調査

### 1. 学生調査 報告書

#### 調査の概要

九州大学では、新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言を受けて、令和2年度春学期および夏学期のほぼ全ての授業を遠隔で実施しました。これに関連し、2020年9～10月、以下の観点で、全学の学部学生と大学院生を対象にアンケート調査を行いました。(回答者数4,760名、回収率25.8%)

- ・授業の受講状況
- ・オンライン授業に関する改善必要事項
- ・with コロナの状況下でのオンライン授業実施に関する要望
- ・with コロナの状況下における大学に対する要望
- ・コロナウイルスの感染爆発(パンデミック後)のbeyond(post)コロナ時代における大学に対する要望
- ・新型コロナウイルス収束後の九州大学への留学に関する意見

調査の結果は次頁以降にまとめていますが、急ぎよ実施されたオンライン授業ではあったものの、全体的には大きなトラブルはなく、その学びやすさや利便性が評価される一方、対面授業の実施を希望する声もあり、今後の九州大学の教育ではオンライン授業と対面授業の併用が求められていることが伺えました。また、「オンライン授業ではクラスメイトの学びの状況がわからず不安」などの問題点が明らかになったほか、大学への要望事項としては、いずれの学年でも「安定的な授業や研究等の教育研究活動の実施」が最も多く挙げられ、1年生ではサークル活動などの授業外活動の再開を求める回答も多く見られました。

なお、九州大学では、2020年6月上旬にもオンライン授業に関するアンケートを実施しました([https://www.kyushu-u.ac.jp/f/40309/20\\_08\\_11\\_01.pdf](https://www.kyushu-u.ac.jp/f/40309/20_08_11_01.pdf))。6月のアンケートと今回のアンケートで共通した項目の結果を比較したところ、受講態度に関しては、「大きな問題なく授業に集中できた」割合は9%増加し52%となったものの、積極的に授業に取り組むことができた学生は10%減少し25%となった。また、大学生活への満足度に関しては、40%台でほぼ横ばいという結果でした。

本学では、令和2年度後期から一部対面授業を再開するとともに、「With&Beyond コロナ時代における学生のための安心・安全プラン」に基づき学修機会の確保と感染対策を両立する取組を進めました。また、本調査の結果を踏まえ、教育改革推進本部の下に「授業等の在り方検討ワーキンググループ」を設置し、令和3年度の授業及び研究指導等の実施の在り方に関して検討し、大学への提言を行いました。このほか、オンライン授業のグッドプラクティスの情報を集め、「次世代型大学教育開発拠点」を通じて情報発信を行っています。

## 調査結果（詳細）

調査回答数：在學生 4,760 名（学部生 3,333 名、大学院生 1,427 名）

回収率：25.8%（2020 年 11 月 1 日時点の在學生数 18,416 名中（研究生等は除く））

調査期間：2020 年 9 月 28 日～10 月 16 日

授業の受講状況に関して：

- 学部 1 年生の受講科目数は、かなり多い（15-16 科目程度）。（質問⑥,⑦）
- オンライン授業の受講のためのインターネット環境について見ると、スマートフォンのテザリングなどを利用しているのは約 2%で、大多数が固定の高速回線や無線 Wifi を利用していた。また、オンライン授業の受講のためにインターネット環境の改善を行った学生、別途カメラやマイク等を購入するなどした学生はいずれも約 15%であった。また、スマートフォンで受講した学生は全体で約 18%であった。（質問⑧-⑫）
- オンライン授業を受講中に感じたことについて見ると、大きな問題なく授業に集中できたという学生は全体で約 52%であり、十分に予習復習ができた、自分のペースで学習ができてよかったとの肯定的な回答がある一方、目の疲れ、腰の痛みなどの症状が出た、図書館の資料が使えなくて困ったなどの回答も一定数寄せられた。映像や音声の乱れに関しては、7割の学生がトラブルを経験していた。そのうち、音声や映像のトラブルにより受講に大きな影響があった学生も一部存在した。（質問⑬-⑯）
- オンライン授業のメリットについての設問では、「自分のペースで学べる」ことや「何度も復習できる」こと、「通学しなくてよい」ことなどを挙げる学生が多かった。一方、デメリットについての設問では「教員やクラスメイトとのコミュニケーションが少ない」こと、「クラスメイトの学びの状況がわからない」こと、「課題の量が多い」ことなどが多く挙げられた。（質問⑰,⑱）
- オンライン授業を対面授業と比べたときの学びやすさについては、1年生は約 55%が「やや劣る」または「劣る」と回答しており、上級生ではこれらの計は約 36%となっている。一方、「上回る」「やや上回る」とした 1年生は約 31%で、上級生は約 38%となっていることから、1年生に比べ、上級生のほうがオンライン授業をより学びやすいと感じていたと思われる。この点に関しては、1年生は登校する機会が得られず、学内で気軽に情報交換できる人間関係を十分構築できていなかったことも影響していたと推察される。（質問⑲）
- 対面授業と比較してのオンライン授業受講時の疲労感については、「オンラインの方が疲れた」「オンラインの方がやや疲れた」の計が全体で約 37%、「オンラインの方がやや楽だった」「オンラインの方が楽だった」の計が全体で約 30%となっており、全体的にオンライン授業のほうが疲労を感じるという回答が多かった。（質問⑳）

- 図書館の電子ブックを利用した学生は約 20%、提供されていることは知っているが利用しなかった学生は約 31%となっている。一方、提供されていること自体を知らなかったという学生も約 50%弱となっており、別の設問（質問⑬）では「図書館の資料が使えなくて困った」と回答した学生も約 30%見られた。（質問⑳）
- 全体で約 20%弱が、「家族等からの補助のみでは就学困難」としている。（質問㉑）
- 全体としては約 30%、1 年生は約 40%が現在の大学生活になんらかの不満を持っている。（質問㉒）

オンライン授業に関する改善が必要な事項に関して：

- オンライン授業に対して改善が必要だと思うことを問うたところ、「大学が提供する e ラーニングプラットフォームや会議ツールの使いやすさの改良」、「自分（学生自身）のパソコンやネットワーク関連スキルの向上」、「評価方法（試験の実施方法や成績の付け方、出席確認方法）の改善」などを挙げる学生が多かった。（質問㉓）

with コロナの状況下でのオンライン授業実施に関する要望に関して：

- with コロナの状況下でのオンライン授業の実施については、「どちらともいえない」が約 33%と最も多かった。「すべて対面を希望」と「対面が半数を超える」の計は約 32%、「対面が半数以下」「対面を希望しない」の計は約 34%となっており、大まかには、「対面中心を希望」、「どちらともいえない」、「遠隔中心を希望」で大きく回答が3つに割れる結果となった。対面を希望する理由としては「同級生に会いたい」という回答が最も多く挙げられ、対面授業を希望しない理由としては、コロナウイルスの感染が怖いという回答も比較的多いが、「オンライン授業で十分に学習が進む」「通学の負担がある」という回答が多く見られた。（質問㉔-㉕）

with コロナの状況下における大学に対する要望に関して

- 最も回答が多かったのは、いずれの学年においても「安定的に学業に専念できる環境の提供」であったが、1 年生の場合は「サークル活動などの授業外活動の再開」、1 年生以外の学部生および院生からは「経済的支援」への要望がその次に多かった。（質問㉖）

コロナウイルスの感染爆発（パンデミック）後の beyond(post)コロナ時代における大学に対する要望に関して：

- 感染収束後であっても、「計画的なオンライン授業の導入」を求める回答が半数を超えていた。（質問㉗）

新型コロナウイルス収束後の九州大学への留学に関する意見（留学生対象）：

- 留学期間に関しては、現状に満足している割合が最も大きく（55%）、その次はより長く留学したい(25%)であった。また、対面授業の実施割合については、「すべて対面」「対面授業が半数を超える」の計が約 43%、「どちらともいえない」が約 30%、「対面授業が半数以下」「対面授業を希望しない」の計が約 28%で、全体の傾向と比べると、対面授業を希望する割合が若干高くなっている。（質問㉘-㉚）

### 回答者学年別内訳表

学部生	人数	医歯薬学部 (5・6年生)	人数	大学院生 (修士・博士 課程)	人数	大学院生 (専門職学位 課程)	人数
1	1288			M1	625	M1	49
2	778			M2	382	M2	32
3	674			M3	5	M3	7
4	504			M4	1	M4	1
5	2	5	45	D1	105	D1	2
6	1	6	41	D2	86	D2	2
				D3	81	D3	1
				D4	26	D4	1
				D5	2	D5	0
				D6	3	D6	0
				その他	10	その他	6
<b>合計</b>	<b>3247</b>	<b>合計</b>	<b>86</b>	<b>合計</b>	<b>1326</b>	<b>合計</b>	<b>101</b>

この表では、学年については、回答者の記入したもの（自己申告）をそのまま掲載。

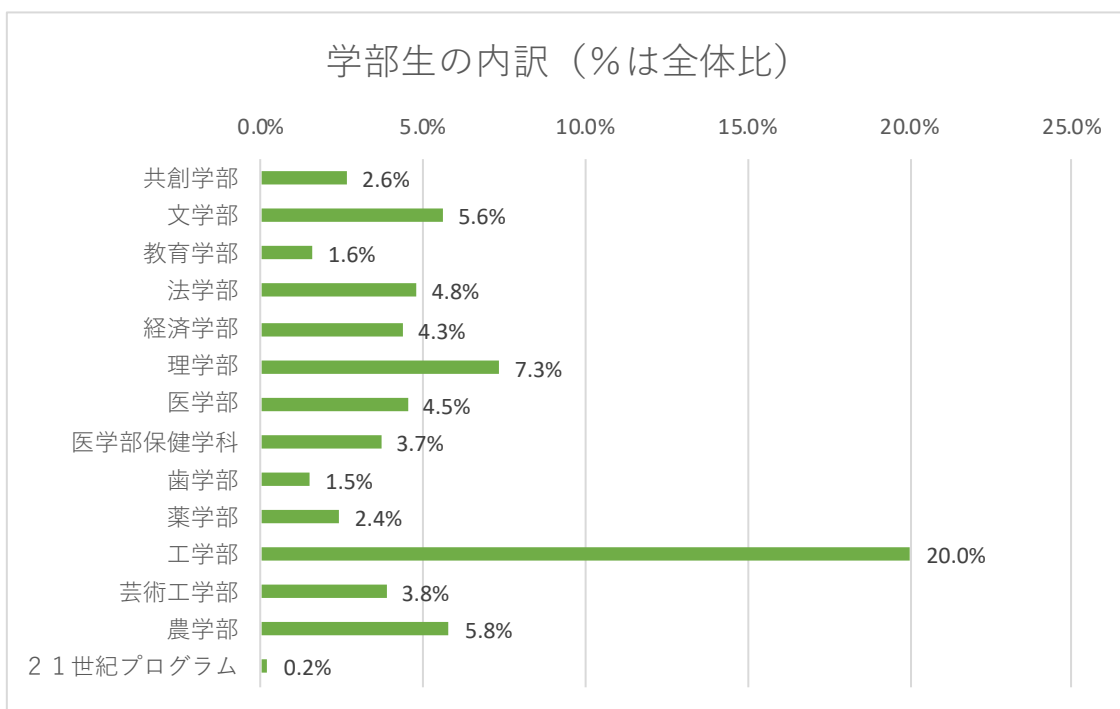
**【注意】この報告書の見方：**

1) 以下の集計では、医歯薬学部の5・6年生は、「院生」とともに、「医歯薬5・6年生・院生」というカテゴリにしている。また、1年生は「1年生」、2-4年生および医歯薬系学部以外の5・6年生は「上級生」と呼ぶこととする。

2) “%”は四捨五入の結果であることに注意（例えば0%と表示されている場合でも、必ずしも該当者が0人であることを意味しない）。

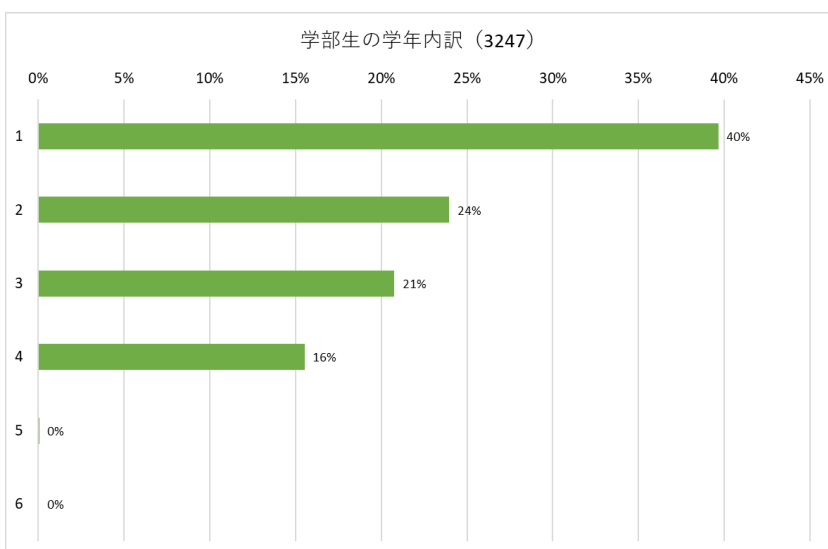
【基本データ】

1. <質問>所属学部



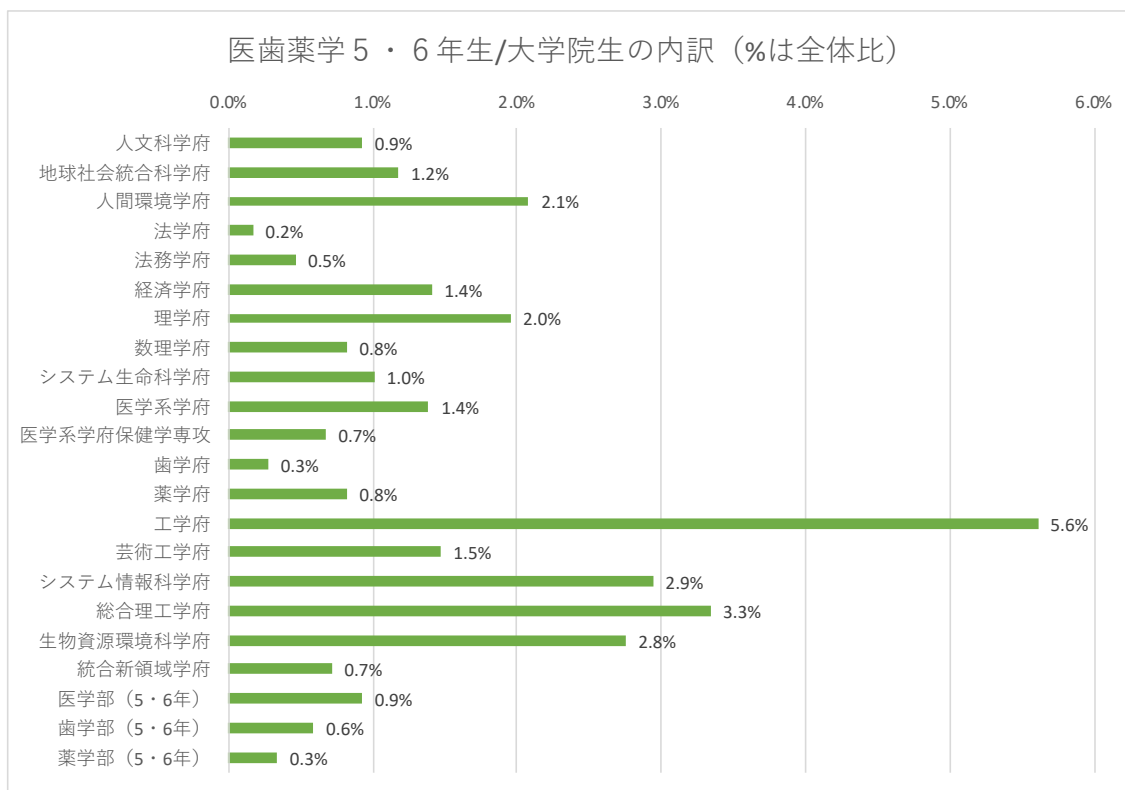
【基本データ】

2. <質問>学年



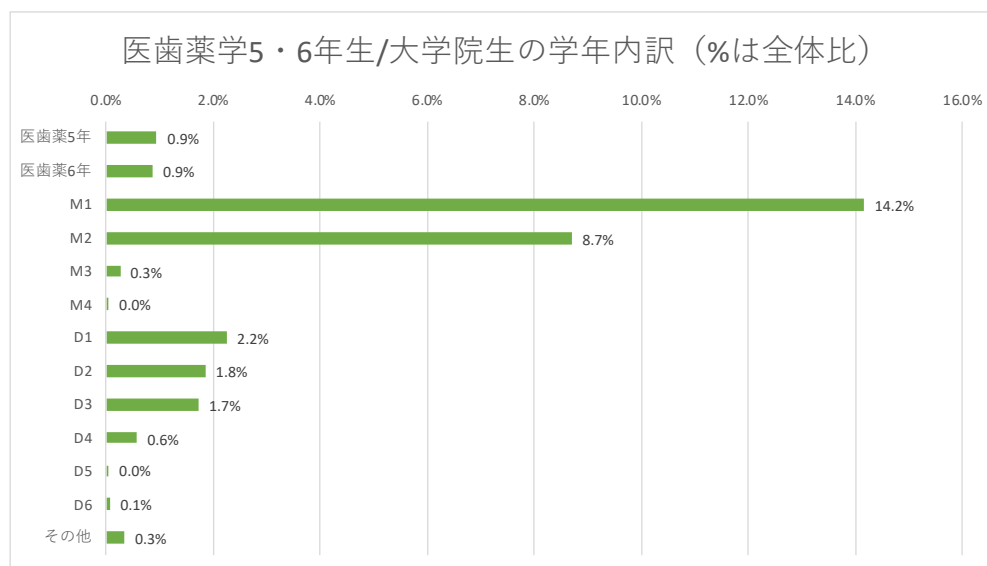
【基本データ】

3. <質問>所属学府



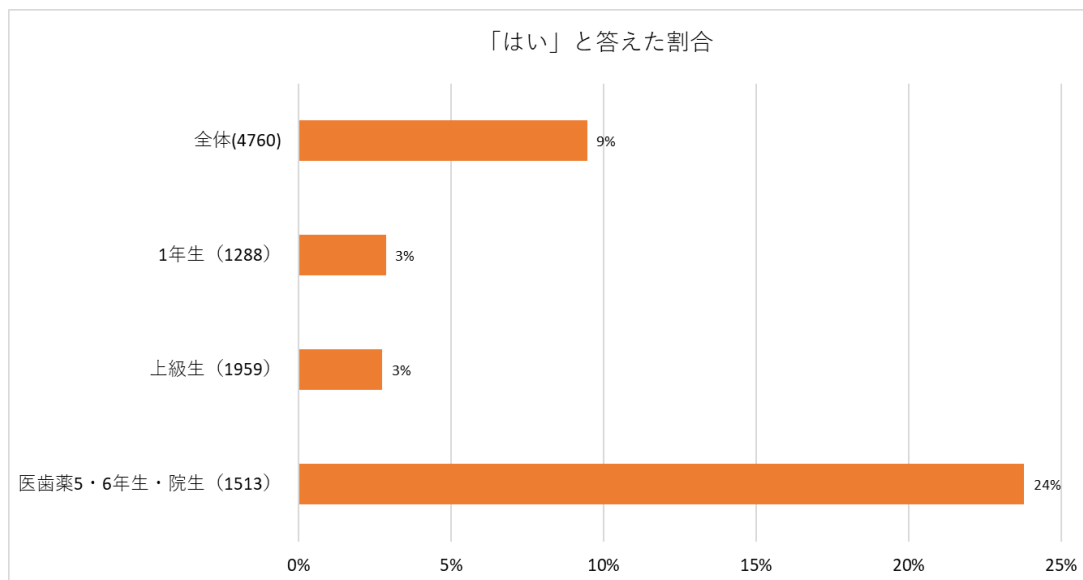
【基本データ】

4. <質問>在籍課程・学年



【基本データ】

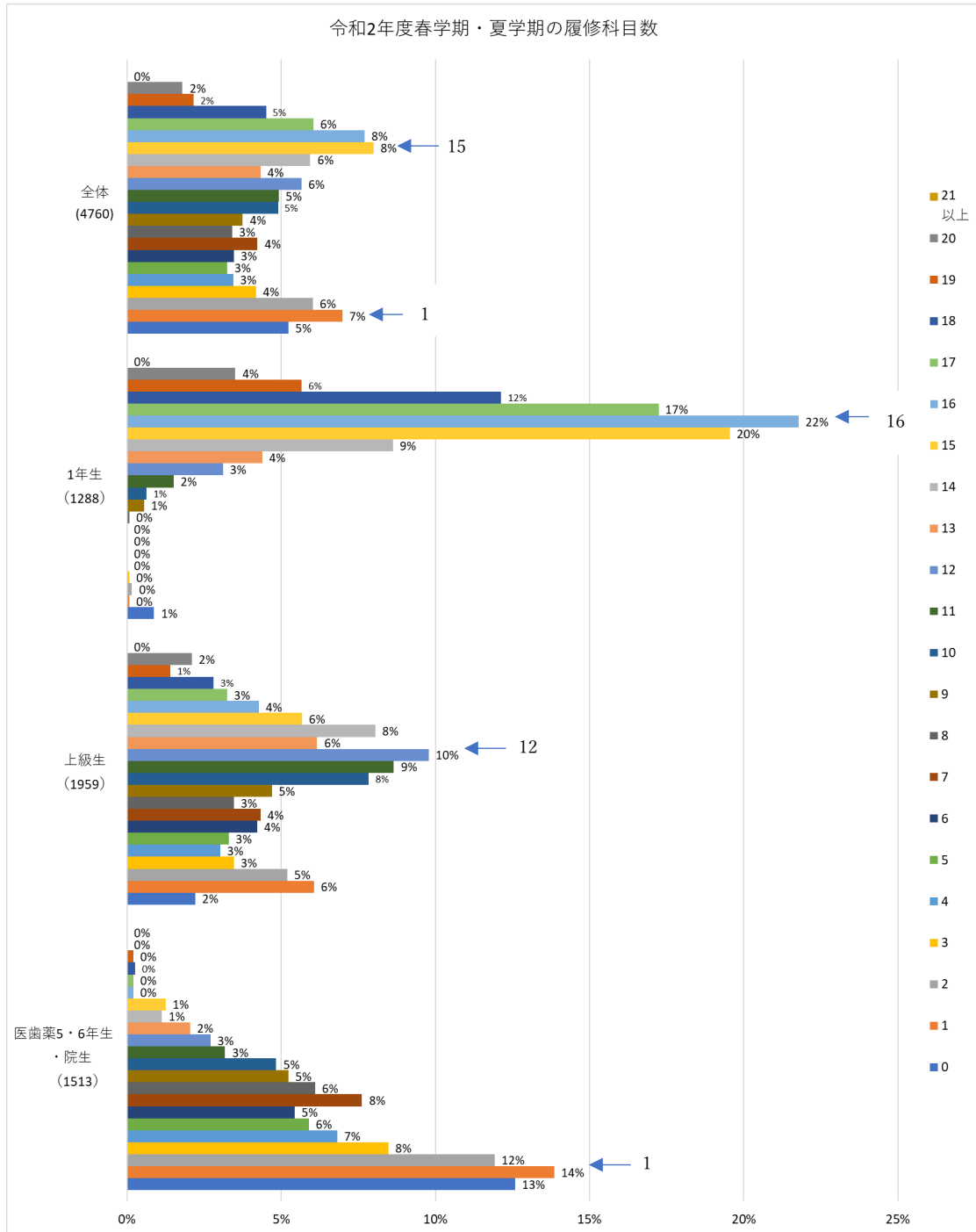
5. <質問>あなたは留学生ですか。



回答者のなかで、1年生、上級生の3%、医歯薬5・6年生・院生の1/4が留学生であった。

【授業の受講状況に関して】

6. <質問> 令和2年度春・夏学期等に（春学期科目、夏学期科目、前期通期科目、通年科目、集中講義等で当該期間中に開講された科目の合計で）何科目を受講しましたか（実習、ゼミ等を含む）。

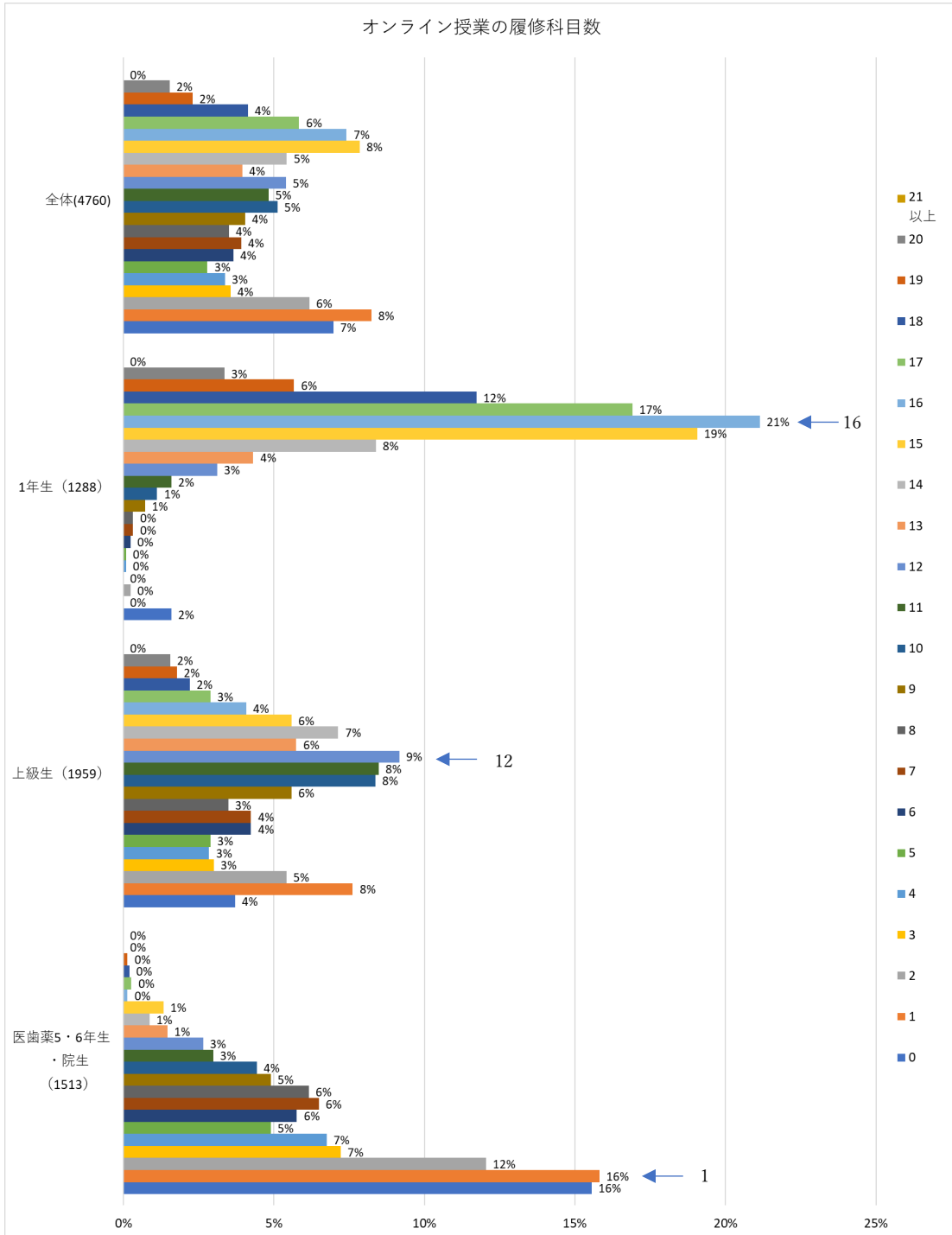


1年生は授業科目数が多く（15-16科目程度）、院生は少ない（1-2科目程度）。全体としては二極化の傾向が見られる。



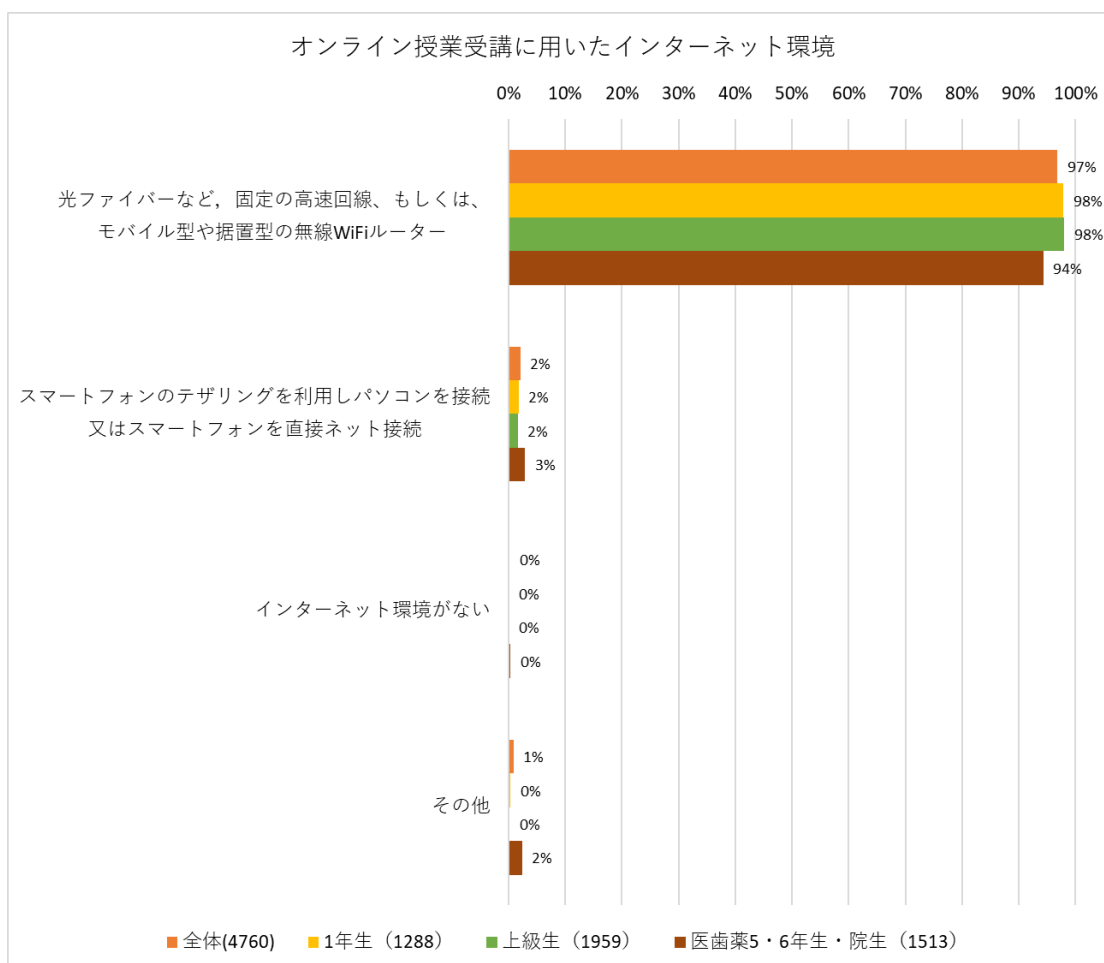
【授業の受講状況に関して】

7. <質問>令和2年度春・夏学期等の受講科目のうち、オンライン（オンデマンド・ライブ形式など問わず。一部対面で実施された場合を含む）で何科目受講しましたか（実習、ゼミ等を含む）。



【授業の受講状況に関して】

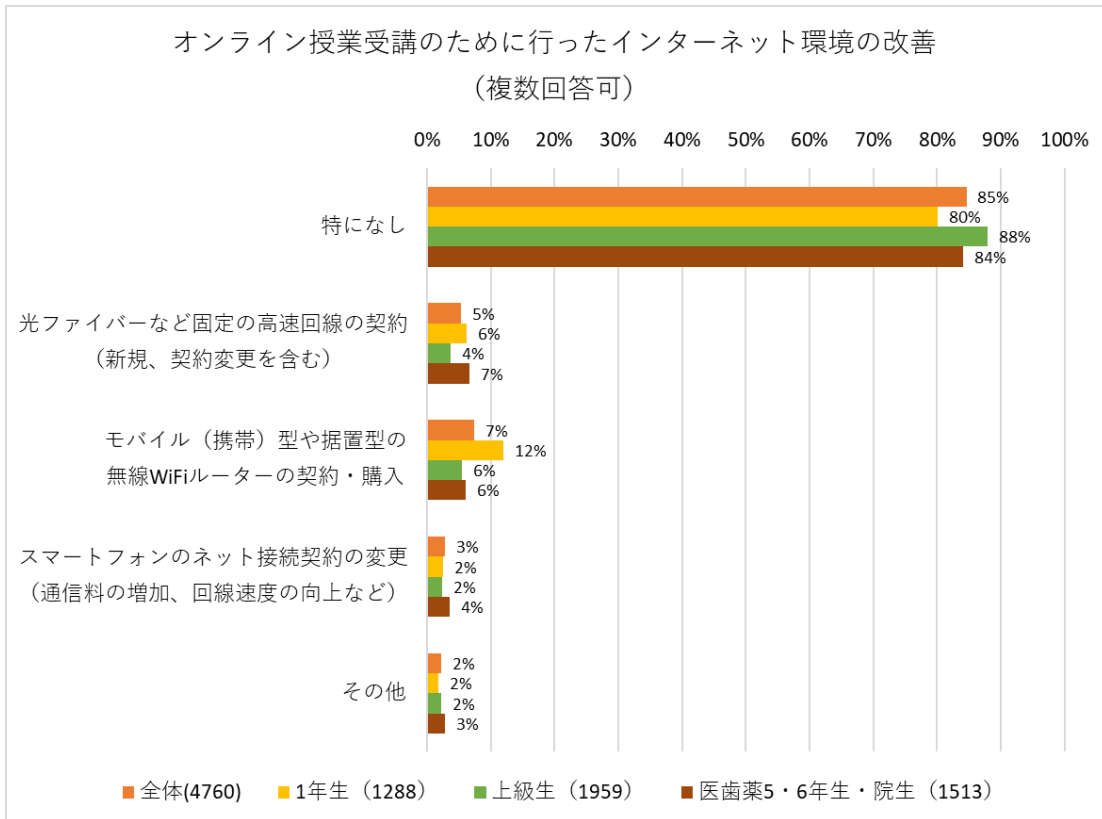
8. <質問>オンライン授業の受講に用いたインターネット環境を教えてください。



少ないながらもテザリングなどでの接続を行っている学生がいる。

【授業の受講状況に関して】

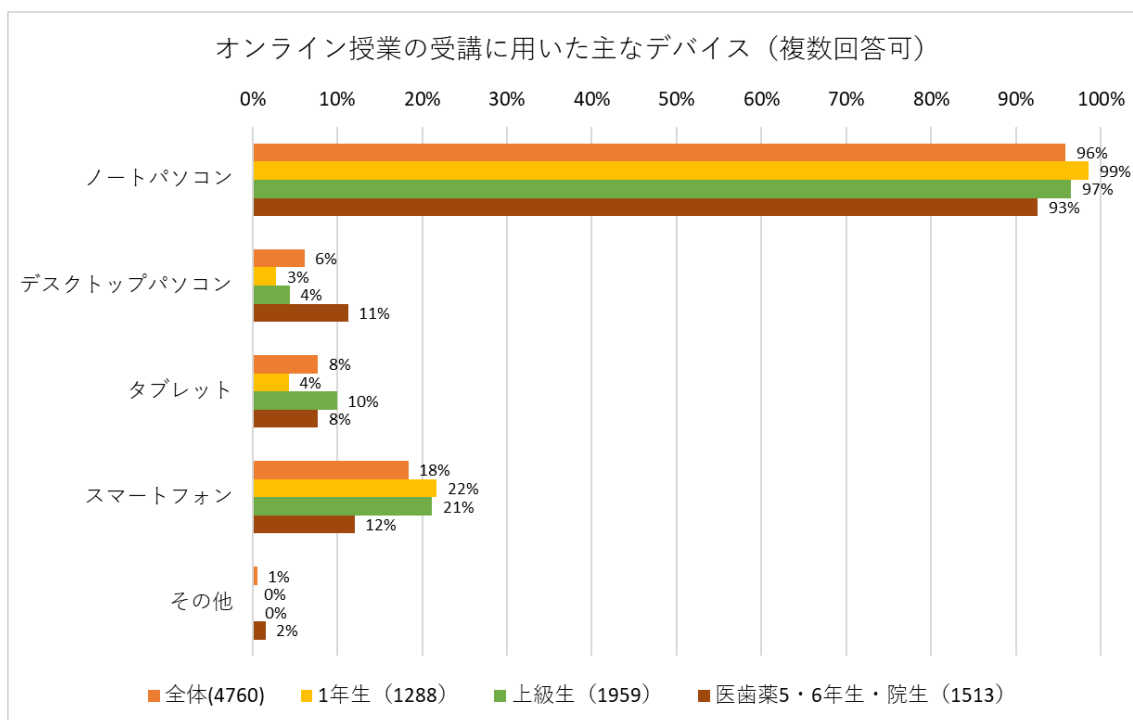
9. <質問>オンライン授業の受講に用いたインターネット環境の改善のために行ったことがあれば教えてください。(複数回答可)



15%の学生がオンライン授業受講のためのインターネット環境の改善を行っている。

【授業の受講状況に関して】

10. <質問>オンライン授業の受講に用いた主なデバイスを教えてください。(複数回答可)

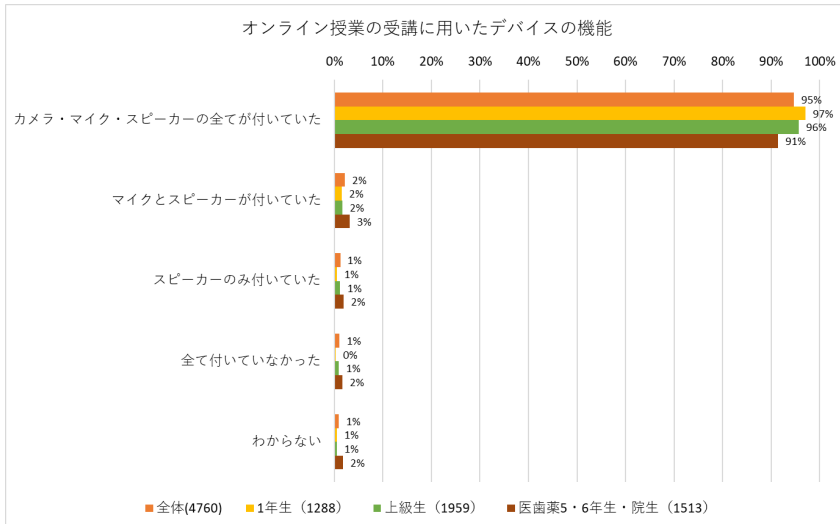


多くの学生は、ノートパソコンをオンライン授業の受講に使用しているが、スマートフォンでの受講を行った学生も10~20%程度存在していた。

注) 九州大学ではパソコン必携化がなされている。

【授業の受講状況に関して】

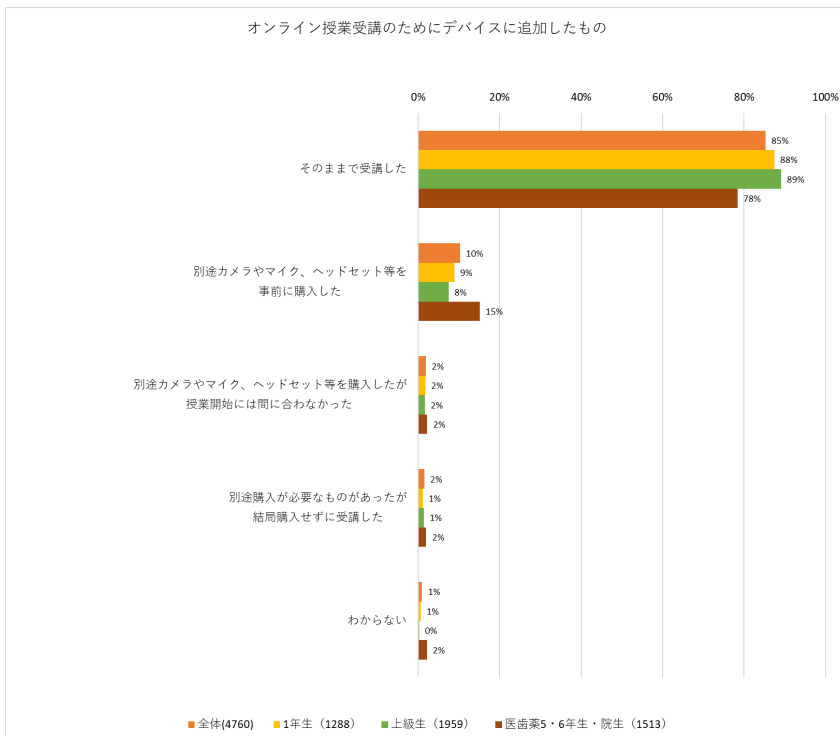
11. <質問>オンライン授業の受講に用いた主なデバイスについて教えてください。そのデバイスには、カメラ、マイク、スピーカー機能が付いていましたか。



当初購入したPCにオンライン授業に不向きなものが少数存在していた。

【授業の受講状況に関して】

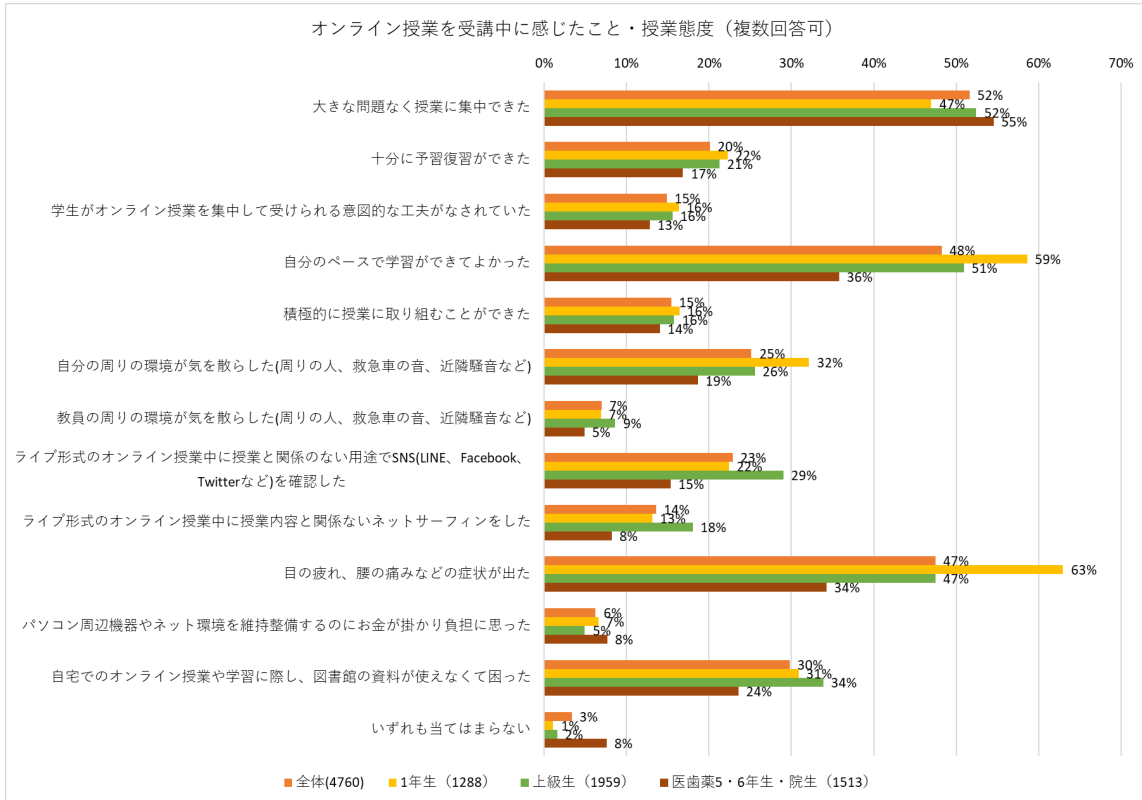
12. <質問>オンライン授業の受講のためにデバイスに追加したものはありますか。



12%程度の学生が、オンライン授業の受講のために追加でデバイスを購入していた。また、購入が間に合わなかった学生も数%存在していた。

【授業の受講状況に関して】

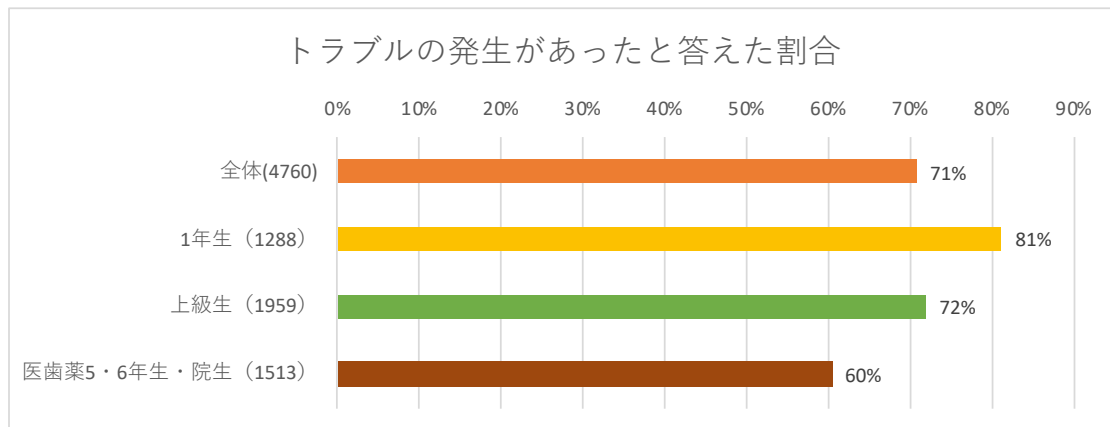
13. <質問>オンライン授業を受講中や受講後に感じたこと、また、授業態度に関して、以下の各項目のうち、当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)



半数以上の学生は、大きな問題無く授業に集中できていたようである。一方で、目の疲れや腰の痛みなどの健康上の問題や図書館資料が使えなかったなどの問題が伺えた。

【授業の受講状況に関して】

14. <質問>オンライン授業受講時に、映像が見られなくなる、音声途切れる、など、受講に支障が出るような不具合が発生したことがありますか。

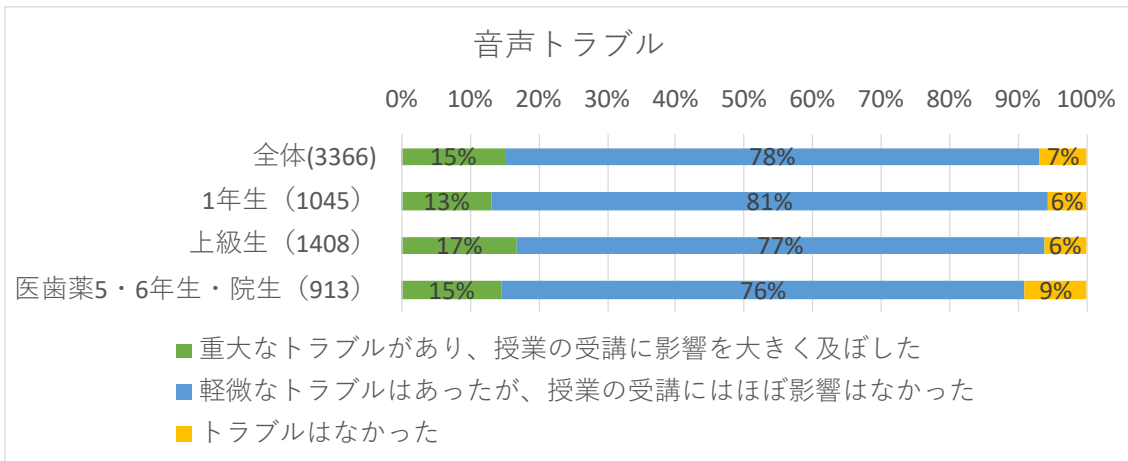


全体で7割の学生がトラブルを経験していた。

【授業の受講状況に関して】

15. <質問>『オンライン授業受講時に、映像が見られなくなる、音声途切れる、など、受講に支障が出るような不具合が発生したことがありますか。』で「あった」と回答された方に、質問をします。

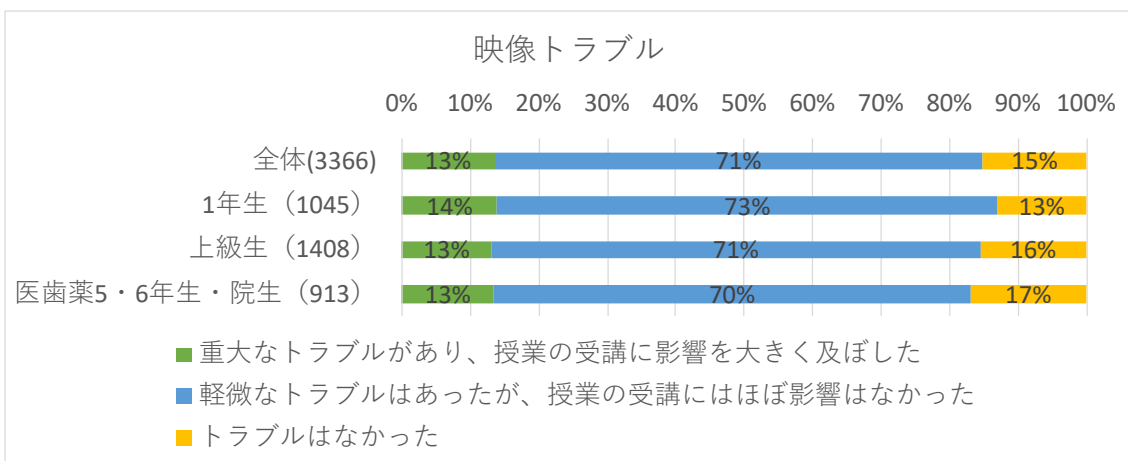
a. 音声のトラブル



【授業の受講状況に関して】

16. <質問>『オンライン授業受講時に、映像が見られなくなる、音声途切れる、など、受講に支障が出るような不具合が発生したことがありますか。』で「あった」と回答された方に、質問をします。

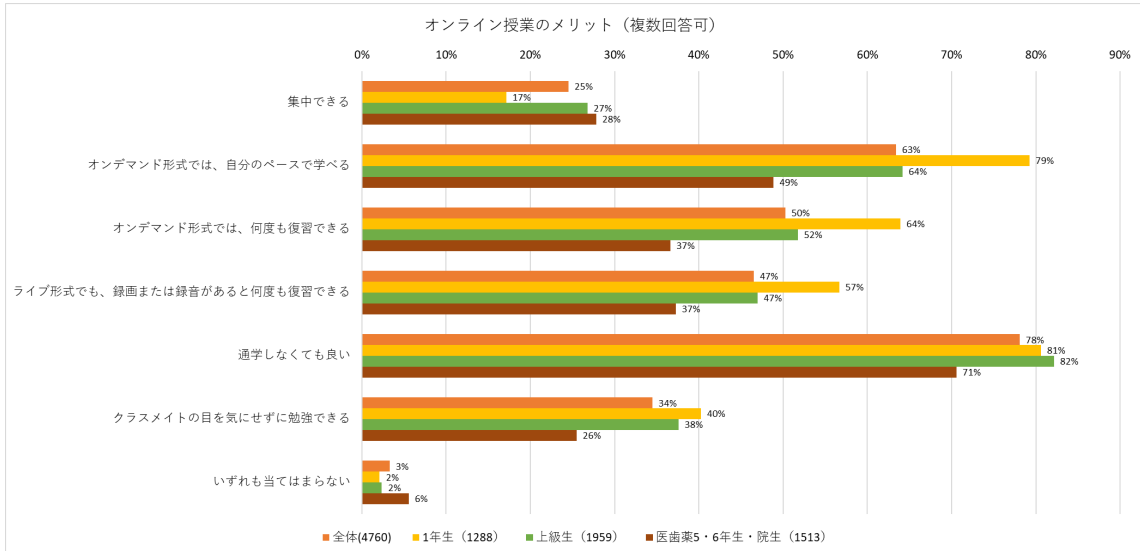
b. 映像のトラブル



音声、映像のトラブルにより受講に大きなトラブルを経験した学生が1~2割存在していた。大きな問題無く受講できた学生は、ともに85%を超えていた。

【授業の受講状況に関して】

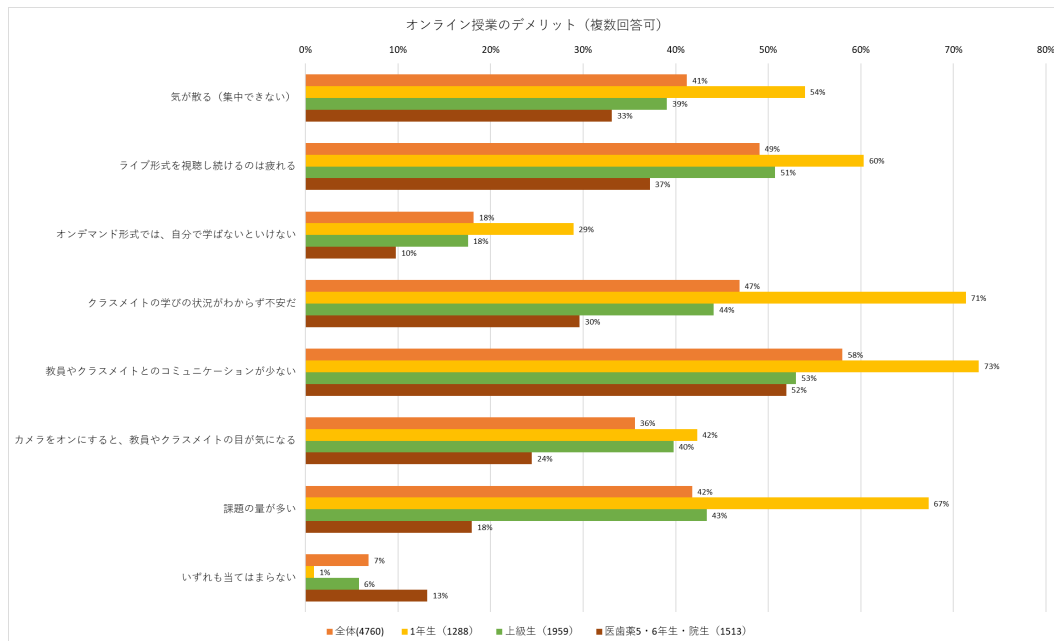
17. <質問>オンライン授業やその実施形式の持つメリットについて、あなたがそうだと思うものをすべて選んでください。(複数回答可)



個人ペースの学習や復習のしやすさ、通学が不要であることなどが、オンライン授業のメリットとして認識されていた。

【授業の受講状況に関して】

18. <質問>オンライン授業のデメリットについて、あなたがそうだと思うものをすべて選んでください。(複数回答可)



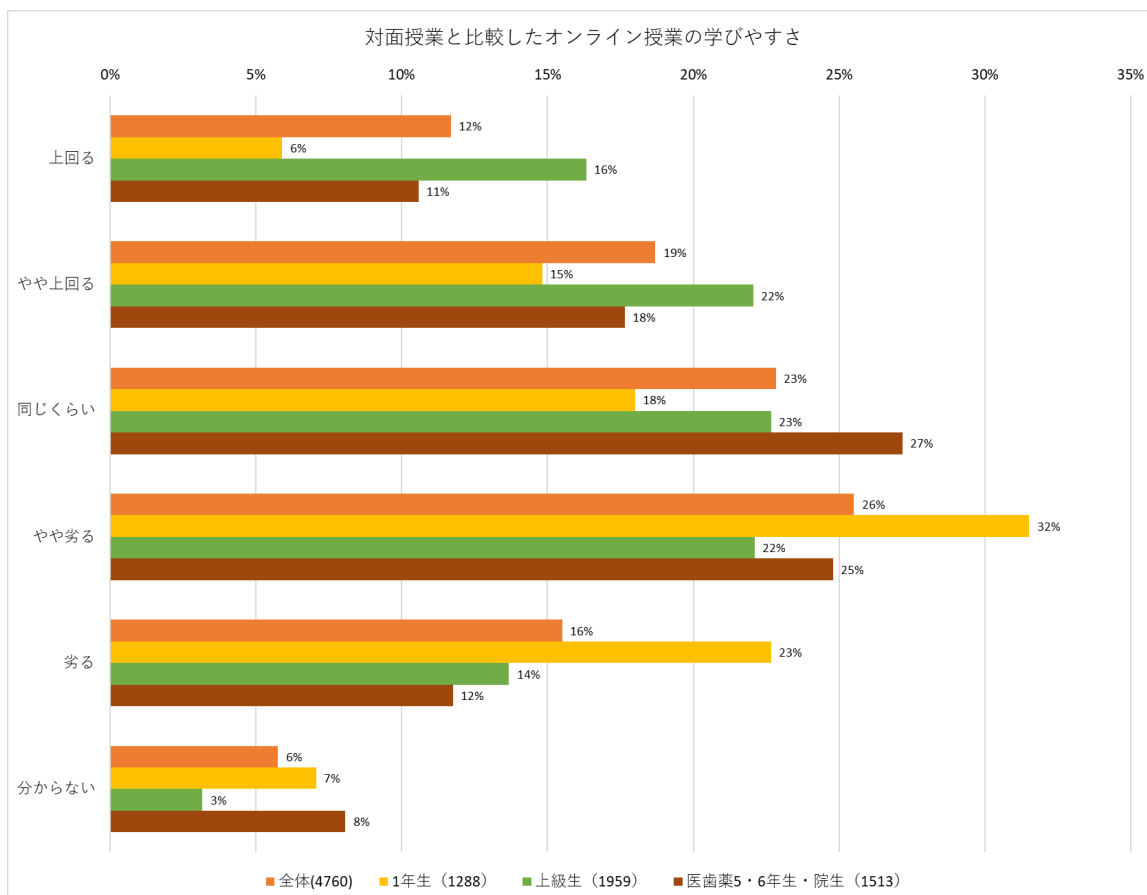
オンライン授業への集中、疲労感、クラスメイトの学習状況がわからないこと、教員やクラスメイトとのコミュニケーションの少なさ、課題の多さが問題点として認識されていた。



【授業の受講状況に関して】

19. <質問>オンライン授業での学びは対面授業（いわゆる教室での授業）と比べて勉強のしやすさについてどのように感じましたか。

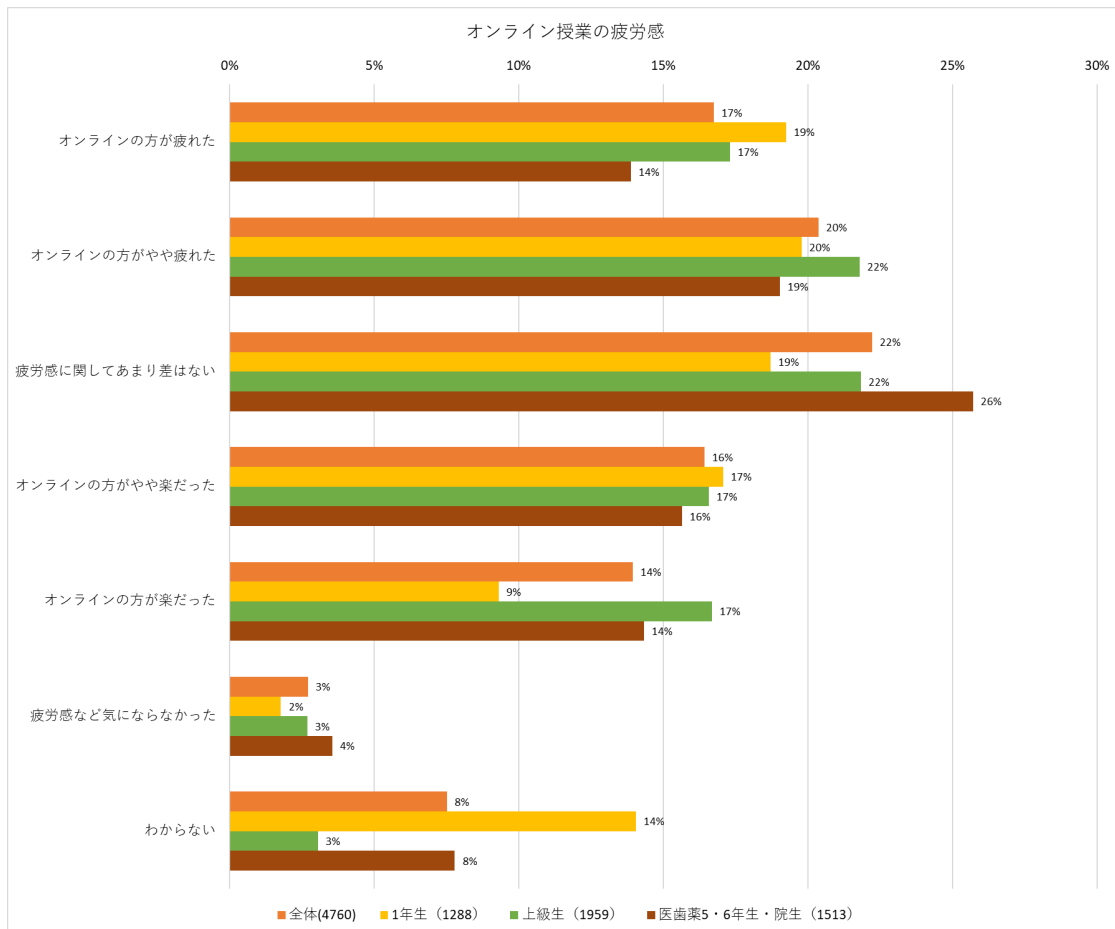
（※学部1年生は、中学生や高校生等の時に教室で受けた授業と比べてください。）



1年生は半数以上が対面授業の方が学習しやすいと回答しているが、上級生では対面の方、もしくは、オンラインの方が学習しやすいとそれぞれに回答した者がほぼ同じ割合であり、また、院生は対面の方がより学習しやすいと感じていた。一方、1年生との比較では、上級生および医歯薬5・6年生・院生の方がオンライン授業は学びやすいと感じている割合が大きい。

【授業の受講状況に関して】

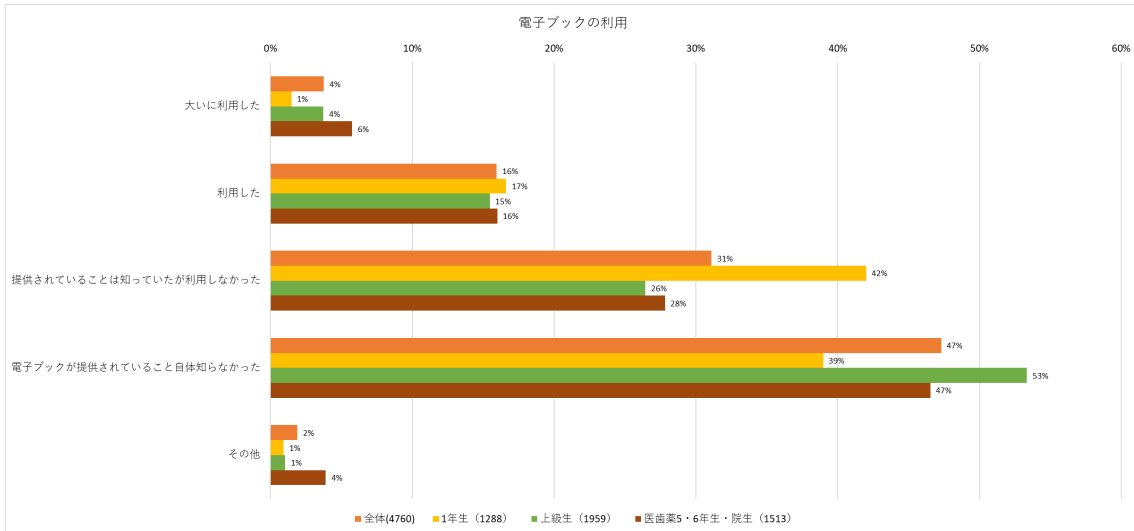
20. <質問>オンライン授業を受講したときの疲労感について、対面授業と比較してどのように感じましたか。



疲労感に関しては、「あまり差がない」が最も多かった。また、オンラインの方が疲労感が際立って大きいという結果は見られなかったため、オンライン授業が一概に対面授業よりも疲労感が大きいというわけでないことがうかがえた。

【授業の受講状況に関して】

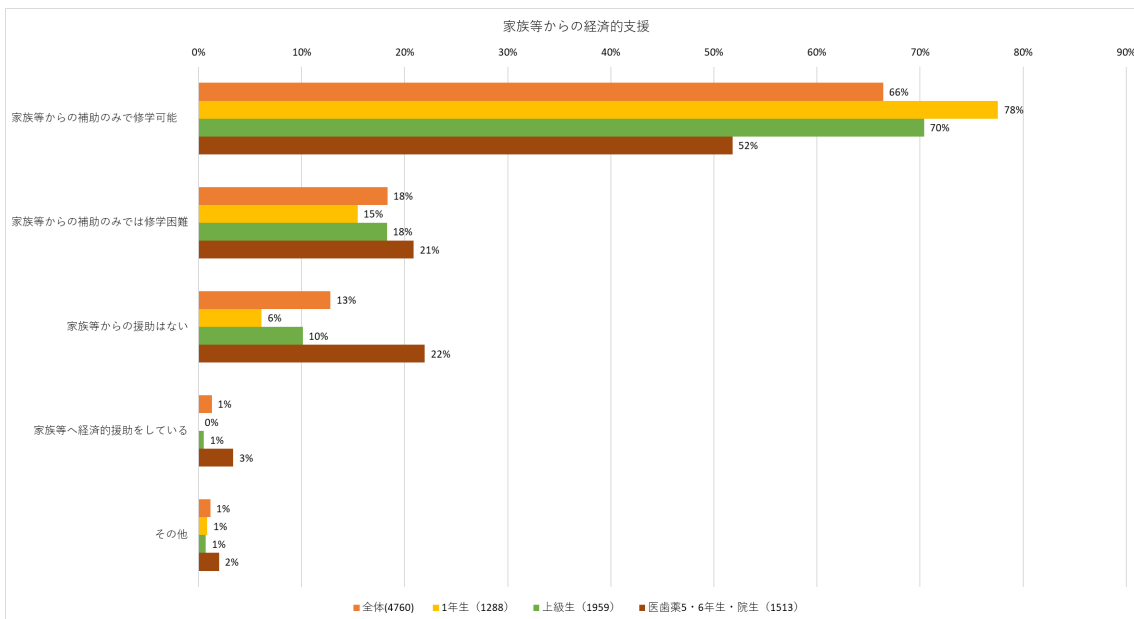
21. <質問>オンライン授業や学習に際し、図書館が提供している電子ブック（Maruzen eBook Library, KinoDen など）を利用しましたか。



半数近くの学生は、図書館の電子ブックの存在を認知していなかった。また、認知していたものの、実際に利用した学生は20%にとどまった。

【授業の受講状況に関して】

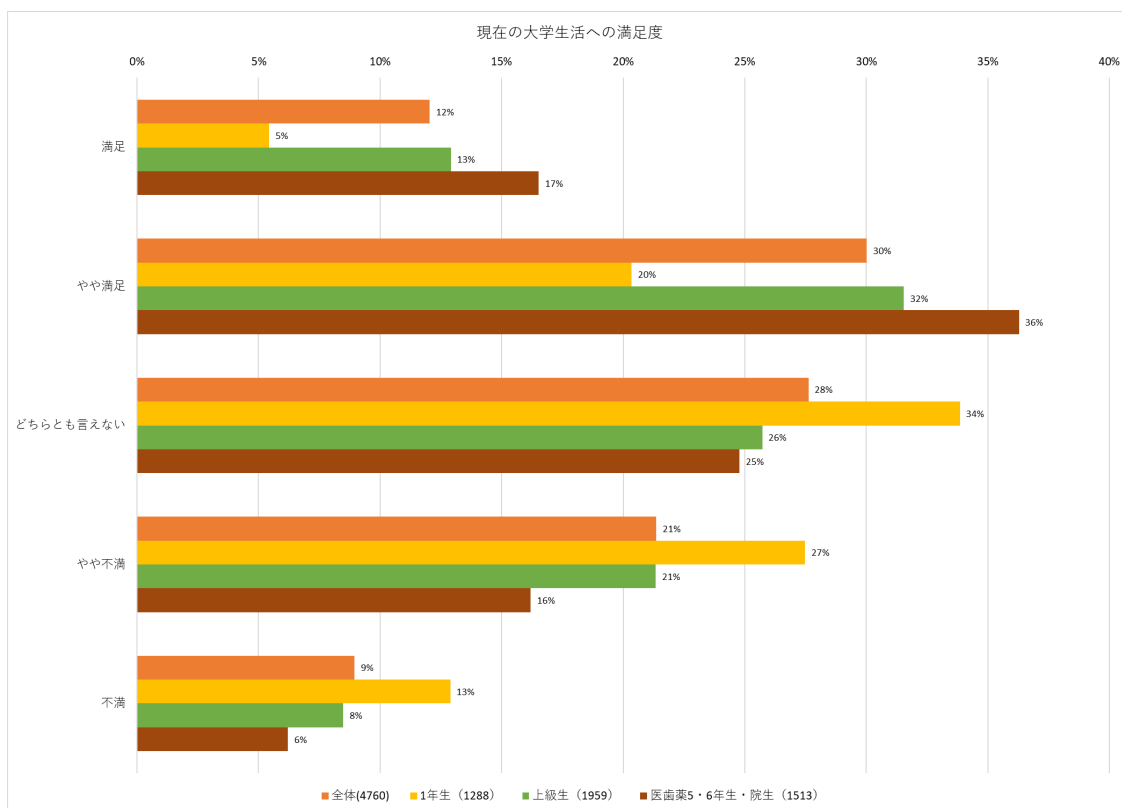
22. <質問>現在、家族等からの経済的援助(仕送り、小遣い等)と修学費用の関係はどうか。



全体で20%弱が、「家族等からの補助のみでは就学困難」としていた。

【授業の受講状況に関して】

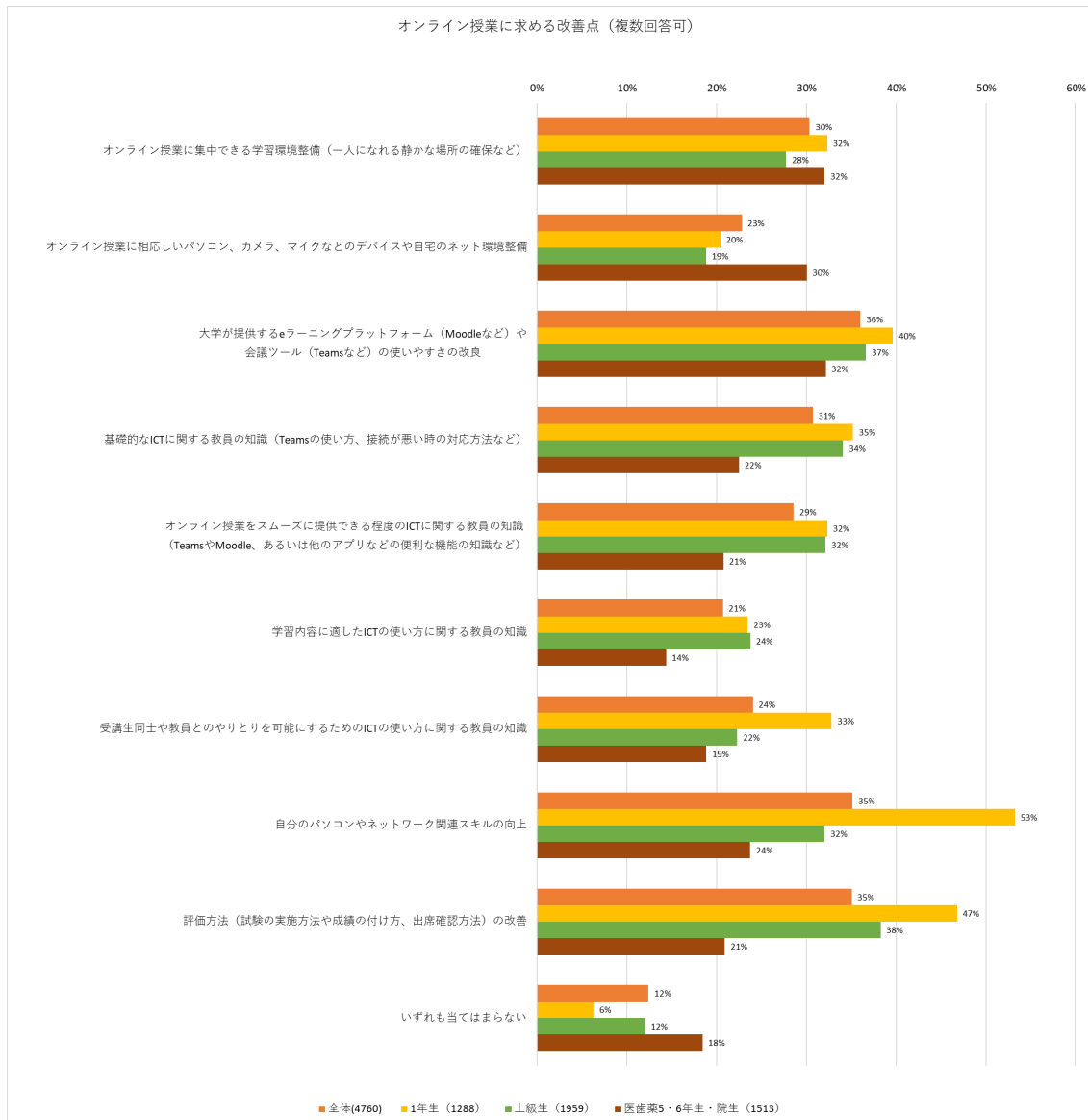
23. <質問>現在、全体（学業面や生活面を含む。）として大学生生活に満足していますか。



全体としては約 30%、1 年生は約 40%が現在の大学生生活になんらかの不満を持っていた。

【オンライン授業に関する改善必要事項に関して】

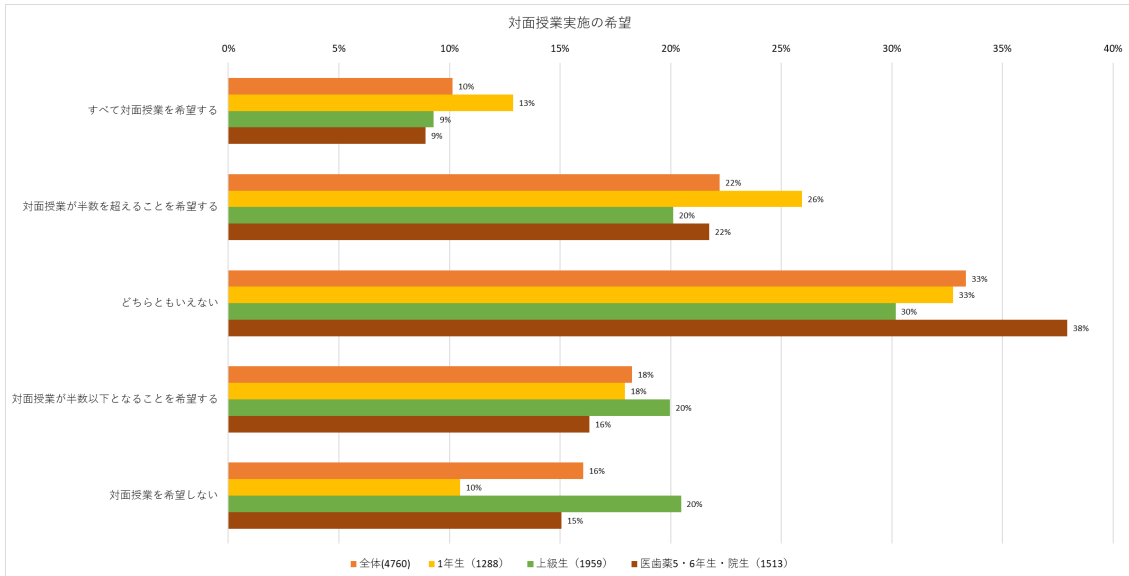
24. <質問>オンライン授業に対する改善が必要と思うことについて、以下の選択肢からすべて選んでください。(複数回答可)



「オンライン授業を集中して受講できる学習環境」「教員の ICT に関する知識」「学生自身の ICT スキル」「評価方法」に関して改善してほしいという要望が見られた。特に ICT スキルに関しては、1年生が問題を抱えていると認識していた。

【with コロナの状況下でのオンライン授業実施に関する要望に関して】

25. <質問>あなたはどの程度対面授業の実施を希望しますか？

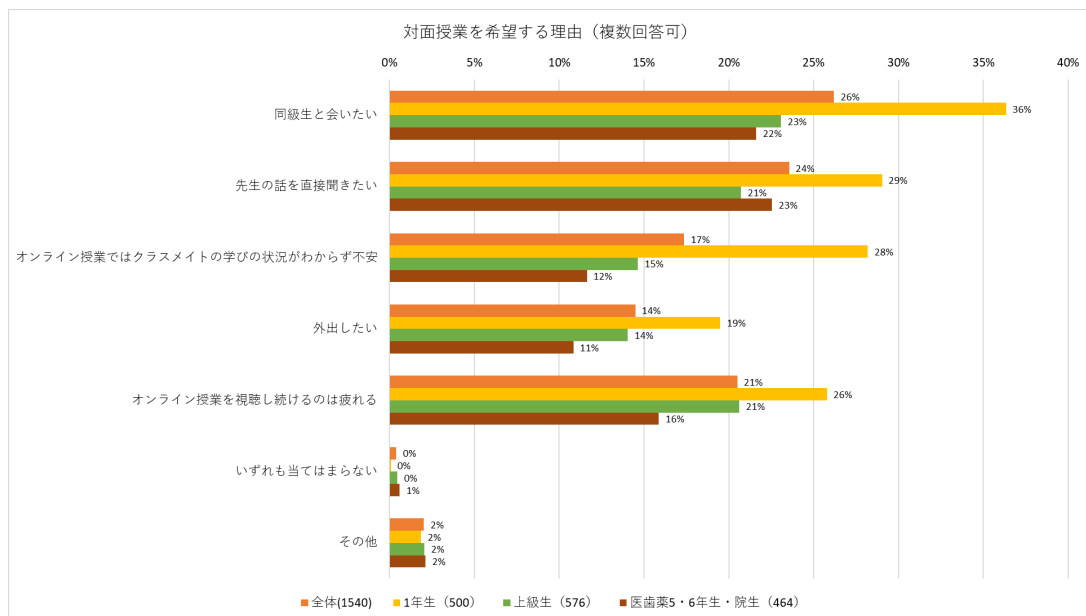


with コロナの状況下での授業については、すべて対面授業を希望する割合が1割、半数以上は対面授業を希望する割合が2割ほどであった。1/3の学生は対面授業とオンライン授業の希望に関して、どちらとも言えないと回答していた。一方で、16%の学生は、対面授業を一切希望していなかった。

【with コロナの状況下でのオンライン授業実施に関する要望に関して】

26. <質問>質問25で「すべて対面授業を希望する」、「対面授業が半数を超えることを希望する」と答えた方に聞きます。

対面授業を希望する理由として、当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)

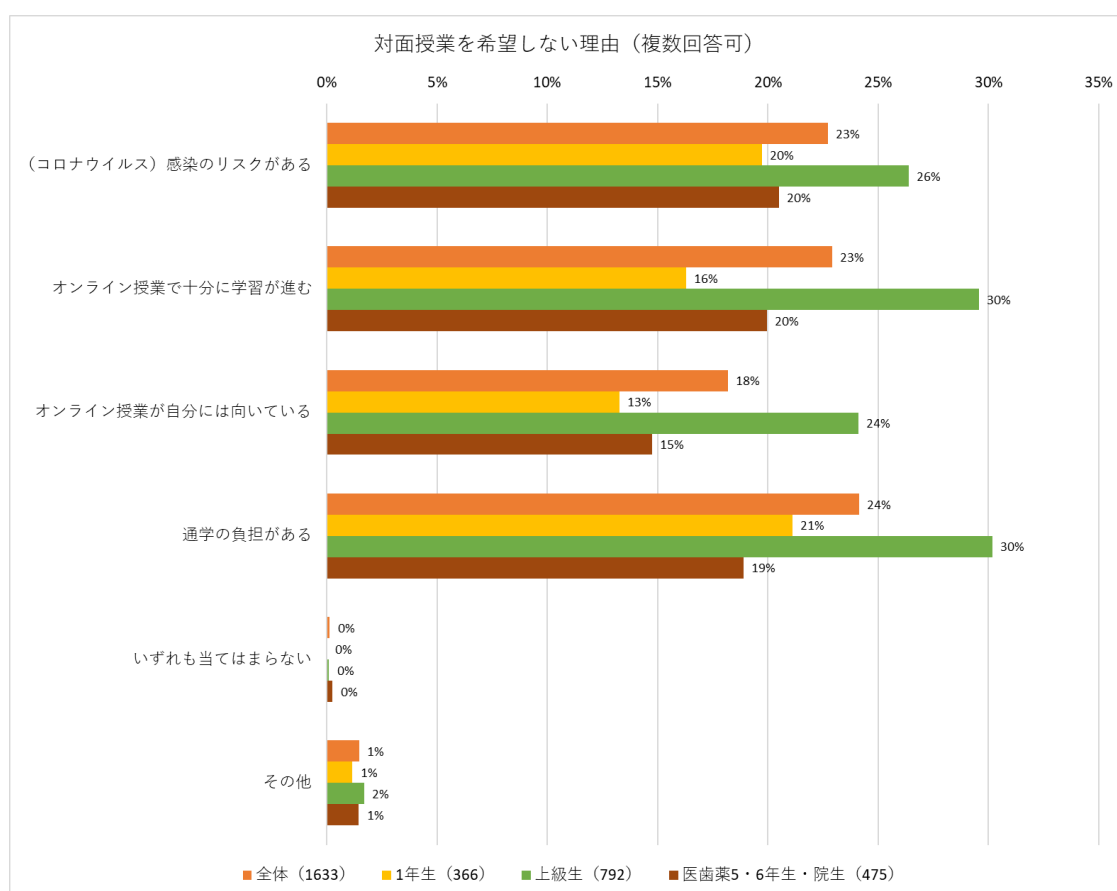


1年生は同級生に会いたいという希望が多い。学習上の問題として「先生の話を持直接聞きたい」「オンライン授業ではクラスメイトの学びの状況がわからず不安」であることをほぼ4人に1人があげている。また、オンライン授業の疲労感を理由とする学生も全体の2割程度存在する。

**【with コロナの状況下でのオンライン授業実施に関する要望に関して】**

27. <質問>質問 25 で「対面授業が半数以下となることを希望する」、「対面授業を希望しない」と答えた方に聞きます。

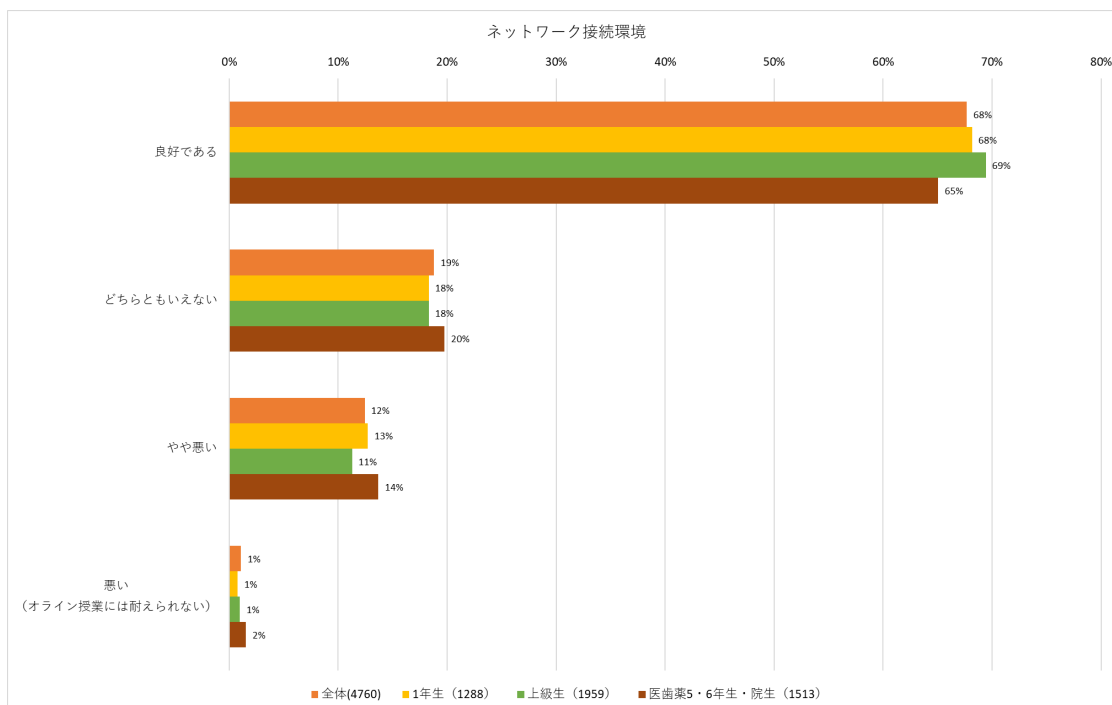
対面授業を希望しない理由で当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)



コロナウイルスの感染が怖いという理由に止まらず、オンライン授業で十分に学習できるという積極的な側面も評価されている。また、通学の負担を考えるとの意見も2割強あった。

【with コロナの状況下でのオンライン授業実施に関する要望に関して】

28. <質問>大学（キャンパス）に通学する時の住居（自宅、アパート、寮など）のネット環境について伺います。WiFi 環境などのネットワーク接続環境の現状について教えてください。



現在のネットワーク接続環境が「良好である」とはいえないと回答した学生が 3 割程度あった。



【with コロナの状況下における大学に対する要望に関して】

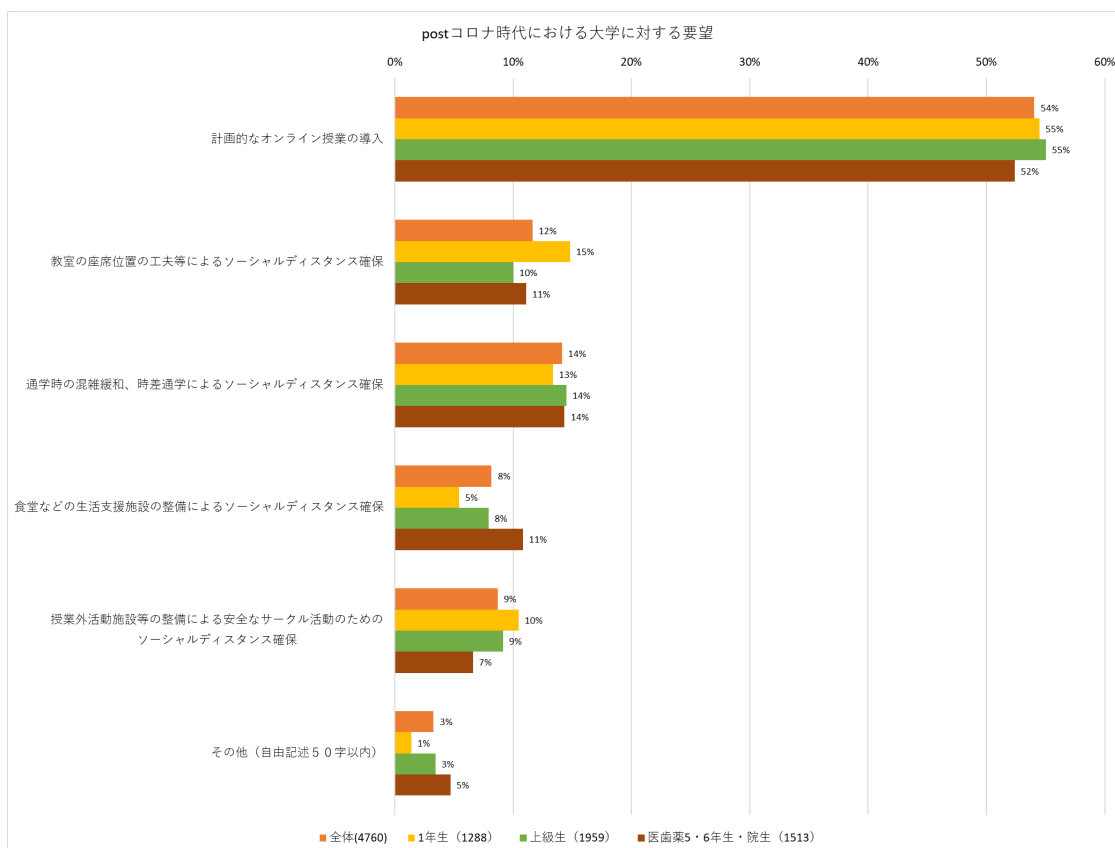
29. <質問> コロナウイルスの影響が完全に収束しない状況において、あなたが大学に特に対応して欲しい事柄を下の選択肢から選んでください。(複数可。最大3個まで)



最も望まれているのは、安定的に学業に専念できる環境の提供であり、1年生の場合はサークル活動への要望、1年生以外の学部生および院生からは経済的支援への要望がその次に位置づいていた。

【コロナウイルス流行の感染爆発（パンデミック）後の beyond (post) コロナ時代における大学に対する要望に関して】

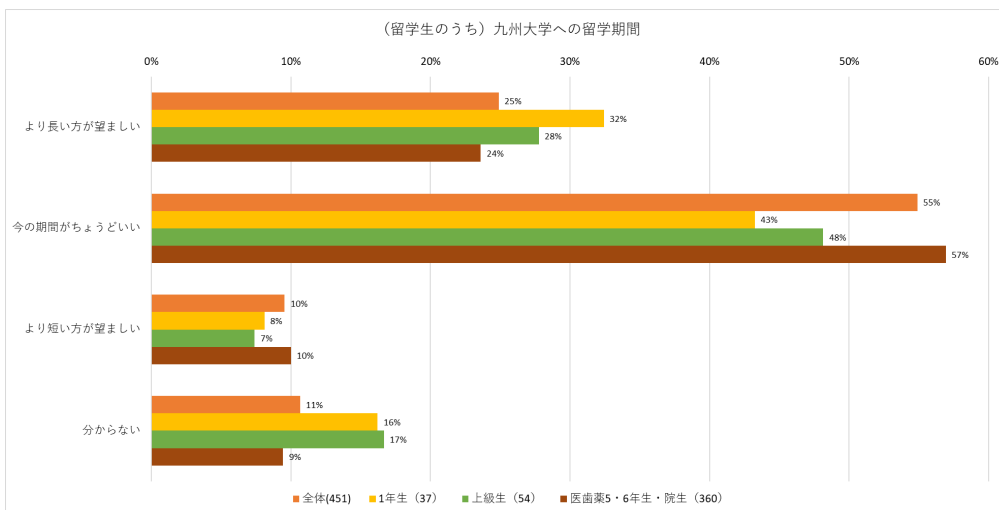
30. <質問>with/ beyond(post)コロナの状況の中、あなたがもっとも大学に対応して欲しいことを下の選択肢から1つ選んでください。



感染収束後であっても、オンライン授業に関しては実施してほしいという要望が半数を超えていた。

【新型コロナウイルス収束後の九州大学への留学に関する意見】（留学生のみ）

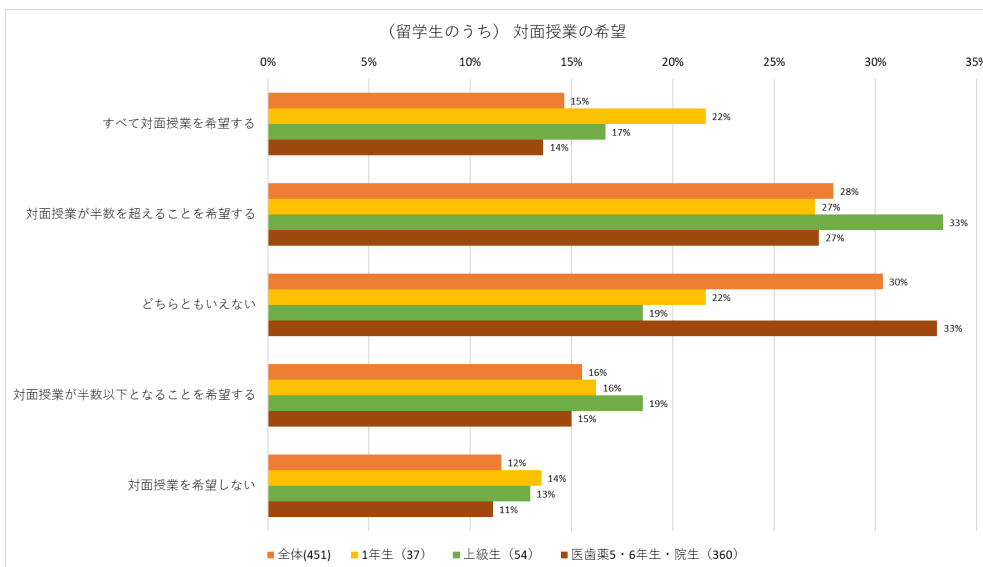
31. <質問>あなたが九州大学で予定している留学期間について、より長い期間と、より短い期間のどちらが望ましいですか。学修面、生活面、経済面や新型コロナ対策面等を総合した観点からお答えください。



留学期間に関しては、現状に満足している割合が最も大きく（55%）、その次はより長く留学したい(25%)であった。

【新型コロナウイルス収束後の九州大学への留学に関する意見】（留学生のみ）

32. <質問>九州大学で学ぶ際に、あなたはどの程度対面授業の実施を希望しますか。



約1割の留学生は、対面授業の実施を希望していない。

---

新しい生活様式のもとでの大学授業の実態と意識に関する全学調査

1. 学生調査 報告書

・調査実施・取りまとめ

九州大学 授業等の在り方に関する検討WG

野瀬 健、鈴木右文、島田敬士、岡田義広、小湊卓夫、木村拓也、長沼祥太郎  
学務企画課 庄司祐介、(オブザーバー：情報システム部情報企画課 山口 誠)

・協力者

教育改革推進本部 鄭漢模 (アンケート実装・分析協力)

教育改革推進本部 淵上佑子 (アンケート実装・図表作成協力)

大学院人間環境学府 高嶋 魁人 (学生アンケート 分析・図表作成協力)

ご協力ありがとうございました。